

**2017年3月期第3四半期決算**  
**テレフォン・カンファレンスにおける主な質疑応答**  
2017年2月2日、東京

**Q1: 好調だった上期に対し、第3四半期（会計期間）の国内の大学・官公立病院市場が急に鈍化した要因は何か。**

A1: 第3四半期では当社の見込みよりも病院の予算執行が遅く、延期となっている状況だった。急性期病院は消費税の損税問題などで厳しい経営状況だが、優先度の高いものから予算付けをしている。当社の製品は比較的優先度が高く、実際に1月に入ってようやく予算が動き出している。また、前期は上期の予算執行が遅く、第3四半期から動き始めた。好調だった前年同期との比較ということもある。

**Q2: 第1四半期決算、第2四半期決算時に続き、業績予想を修正した。予想の精度が低い要因は何か。病院の経営環境を踏まえると、期初予想の国内売上4%成長は高すぎたのではないか。**

A2: 業績予想の修正が続き、申し訳なく思っている。期初予想では、私立病院・診療所市場が堅調に推移していることや、当社の営業体制を病院営業とGP営業<sup>※</sup>に再編した効果などを勘案して4%成長とした。大学・官公立病院市場については厳しい経営環境を踏まえた上で、営業現場からの情報や保有商談を勘案して計画していた。第3四半期では、私立病院・診療所市場は順調に推移したが、大学・官公立病院での予算の執行が想定より遅れたことから見通しを修正した。来期計画の策定にあたっては、より慎重に検討し、精度を高めたい。

※GP: General Practitioner 総合診療医

**Q3: 通期の売上見通しを修正したが、国内の2月、3月の商談はある程度見えているのか。海外では、米国で政権交代によって病院が設備投資を一時的に抑えるなどの影響はあるのか。また、欧州や産油国が低調である。達成確度を教えてほしい。**

A3: 国内では大口商談が前期よりも少ないことや、下期に入り予算の延期が見られることから見通しを修正した。1月に入って予算が動き始めているため、商談獲得に向けて営業活動に注力し、見通しの達成を目指したい。2月、3月の商談は見えてきているものもあり、確度は上がっている。米国については、足元では政権交代の影響は出ておらず、受注は順調に推移している。欧州ではドイツが低調なものの、下期に入って代理店網を追加し、徐々に回復基調にある。中近東ではサウジアラビア、UAEは原油安の影響で低調だが、エジプトで大口商談を受注するなど、好調な周辺国やアフリカが補っている。通期の売上見通しは達成可能と考えている。

**Q4: 海外売上は現地通貨ベースで二桁成長、国内売上は一桁前半の成長を目指すという中長期的な方向性に変わりはないか?**

A4: 海外については、当期の売上も現地通貨ベースで二桁成長を見込んでいる。政治・経済情勢を全て織り込める訳ではないが、海外事業の規模拡大によって、一部の地域での影響を他の地域で補うことが出来るようになってきた。また、消耗品の売上拡大にも注力しており、安定収益につながるものと考えている。こうしたことから、海外での二桁成長という方向性は変わらない。国内についても、現在開発中の人工呼吸器などの新規事業拡充も含めて持続的に一桁前半の成長を目指すことに変わりはない。

**Q5: 通期業績予想では、前期に比べて販管費が増加すると思うが、要因を教えて欲しい。**

A5: 当期だけに発生する一時費用としては、マイナス金利の影響による退職給付費用の増加、事業所移転に係る費用の増加がある。また、海外での販売・サービス網の拡充に伴う人員増強により人件費も増加している。第4四半期は円安に伴う増加が見込まれるが、費用抑制に取り組んでおり、中間決算時の見通しと大きくは変わっていない。

以 上

<ご留意事項>

※本資料は、投資家の皆様へのご参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。